

本校における地理野外調査5か年の実践

昭和53年6月

本校における地理野外調査 5 年間の実践

社会科地理

高校の野外調査は巡検のような単なる見学や観察だけでなく、具体的な「調査」活動まで高める必要があると思われる。以下は昭和48年以来5年間の「地域調査」の実践の報告である。

1. 目 的

どの教科学習においてもそうであろうが、地理学習における重要な目標は、観察力や思考力の育成ということである。そのためには、どのような方法を考え、導入するかということである。われわれは、その最もよい方法の一つとして、生徒が生徒なりの研究活動を行なうことだと考えた。その研究も単にある事象を考えるのではなく、日常身のまわりで生徒が見聞する具体的事象を、自ら観察し、まとめ、発表する活動がより適切だと考えた。

それらの活動によって、生徒たちはどんなテーマを選び、どのように観察し調達するか、又、どのように資料を得るか、どのように活用するか、さらにどのように表現するかを考えるであろう。そこに生徒なりに創造する学習が展開されるのではないだろうか。

2. テ ー マ

地理学習の一環であるから、生徒が選ぶ研究テーマは、もちろん地理的なテーマでなければならないといえる。だから「札幌市に関する地理的事象」を研究対象とするテーマを選ぶよう生徒には一応指示した。しかし結果として、地理的事象や地理的テーマでないと思われるものを多く含むようになったのは、生徒たちがグループ討議で自主的に決めたことをそのまま認めたからである。その理由は、このような学習形態はわれわれとしても初めての試みであったし、生徒のあるがままの関心を大切にしようとする気持ちと、「生徒なりの問題の把握でよいわけで、その問題を探求していく過程で、創造力、社会科としての諸能力、すなわち観察力、表現力、資料の活用などの諸能力の育成がはかれるのである。生徒が社会の諸事象について、何かを研究しようとする気持ち、探求しようとする心をたいせつにしたい」（小峯勇氏：社会科地理学習の実践と課題）という観点に立ったからである。

3. 経過－昭和51年度の場合－

昭和51年6月中旬	ガイダンス、グループ編成（クラス内で任意に5～6名で構成）、グループ討議（研究テーマ・調査計画等の話し合い）～授業時1時間をあてる。
7月中旬	グループ討議（研究テーマ・フィールド・調査目的及び方法・日程など計画

書の作成)～授業時2時間をあてる。

7月下旬	研究調査開始
7月～10月	調査・研究活動(各グループの計画により任意に休暇中・放課後・休日等を利用して行なう)
10月中旬	市街地及び郊外のバス巡検(生徒全員参加、5時間30分コース)
11月上旬	クラス毎に各グループの中間発表～授業時2時間をあてる。
11月～12月	調査研究活動
昭和52年1月下旬	野外調査研究レポート提出
2月上旬	クラス毎に発表会～授業時2時間をあてる。
2月下旬	レポートの要約「さっぽろ第4集」の一次原稿の作成作業と提出(1週間)
3月上旬	レポートの要約二次原稿の作成と提出。その後編集作業開始。

4. 指導概要

実際の調査活動は殆どの生徒は初体験のため、こまかい手順の説明と指導が必要である。以下指導の際、生徒に配布したプリントを示す。

ガイダンス

地理野外調査について

- 調査の目的——札幌の地理的事象を具体的に調査し、研究することにより、地理的観察力・思考力・判断力・表現力を身につける。
- グループ編成——クラス内で任意に5～6名程度で編成し8グループつくる。
- 研究テーマ——札幌で見聞する地理的事象で興味・関心のあることを中心に具体的研究テーマをつくる。テーマの例については、別紙のものを参考にするとよい。
- 調査研究日程——調査・研究は次の日程をめどにすすめる。
 - 7月中旬……グループ編成・研究テーマ・調査方法・日程についてグループ討議
 - 7月～8月……野外での調査実施(夏休み中)
 - 8月～9月……野外での調査結果の分析・研究活動(休み時間、放課後等を利用)
 - 9月下旬……中間のまとめと発表
 - 10月……研究活動
 - 10月31日(金)……研究レポート提出
 - 12月下旬……発表会
 - 1月31日……原稿(要約)提出
 - 3月……高校生の社会科研究「さっぽろ」第4集発刊
- 調査計画——どの地域について、どんな方法で、何を調査研究するのかを焦点化し、しっかりした計画をつくること。しっかりした計画がなければ、内容のある研究はできない。そのためにはグループ内で十分に話し合うこと。

現地調査の実施についての注意事項

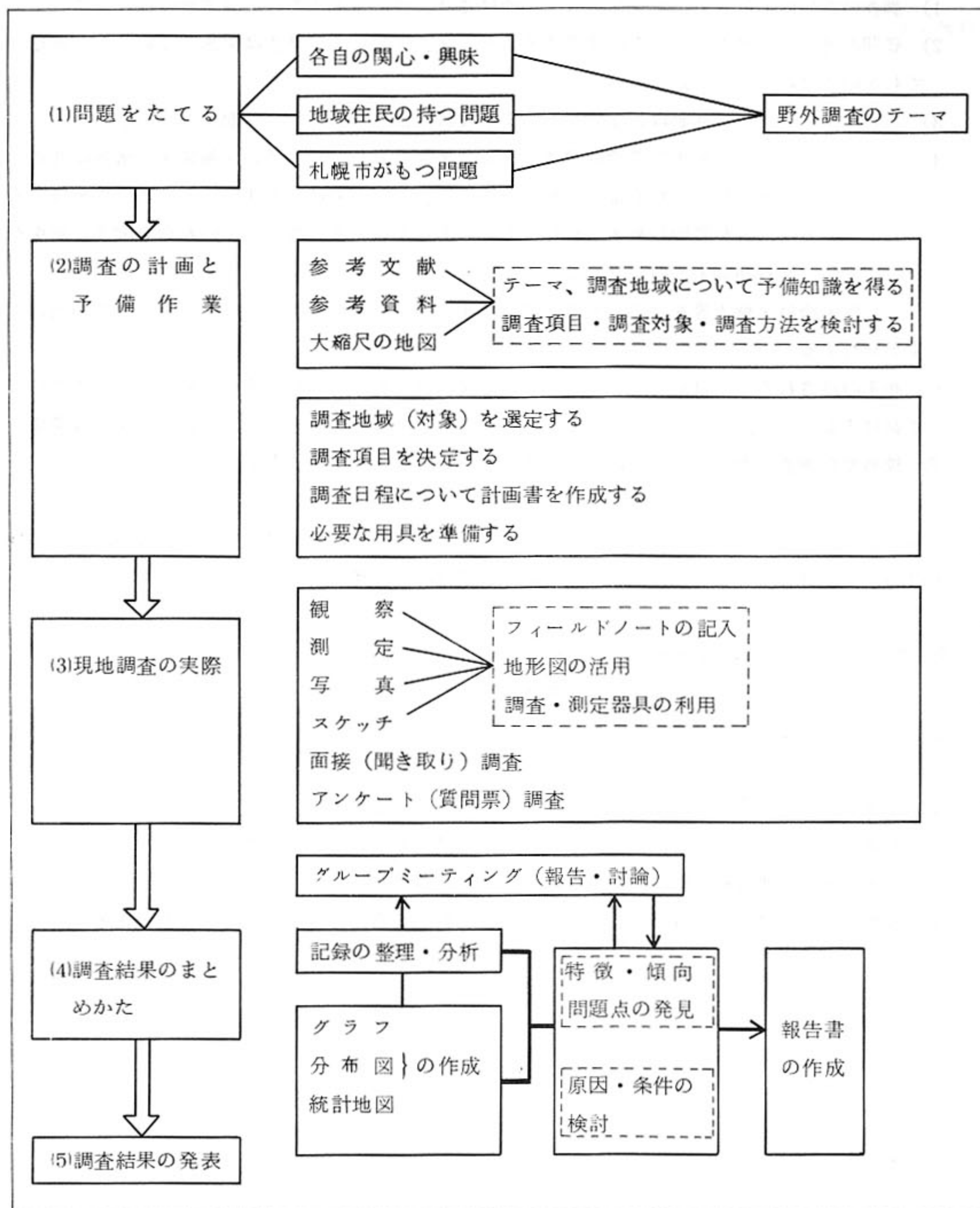
- 1) 調査の実施にあたって、危険な調査・場所はさけ、特に自動車等の交通事故には注意すること。
- 2) 昼間の暑い時の調査では健康に注意すること。又、夜間に及ぶ調査は実施しないこと（遅くても5時には終ること）。
- 3) 調査は1人での単独活動はしないこと。必ず複数によりグループで行動すること。
- 4) 常に高校生（北陵高校生）の野外調査であることを自覚し、言葉使い・服装・礼儀等に注意し、相手が気持ちよく協力してくれるように努力する。又、訪問先では、相手のことを考えて要領よく短時間で必要な内容を質問し教えてもらうこと。あらかじめ電話等で相手の都合を聞き、約束をとっておいてから訪問するのが常識である。
- 5) 官公庁・会社・個人等を訪問するときは、必ず学校の紹介状を持っていくこと（地理担当の先生が発行する）
- 6) 相手の話されることはもらさずメモをとる。又、訪問先から借りた資料は約束の期日までに必ず返却すること。訪問先名とお世話いただいた方の名を聞いておき、後日礼状を出すのは常識。
- 7) 校外での調査活動を実施する時は、必ず「校外活動届」を出すこと。

以上、細々と注意事項を述べたが、過去3か年の野外調査では事故はもちろん、校外からの苦情もない。この調査を今後も長く続けるためにも、最低限上の事項に注意してもらいたい。

調査報告（レポート）のまとめ方・かき方

- 1) 調査の目標・目的をのべる（なにをあきらかにしたいか）
- 2) 調査法を明記する（どのようにしらべたか）
- 3) 以上にもとづいて結論を記す。
- 4) できるだけ分布図・地図・グラフ・表・写真等をそえること。
- 5) 参考資料は必ず記すこと。又、資料の出所・出典をあきらかにすること。
- 6) レポートは横書原稿用紙（本校売店にある）を使うこと。
- 7) 提出レポートは学校で保管し、後輩その他の資料とするため返還しないことを原則とする。

調査の方法・手順



5. 要約集録「さっぽろ」の刊行

その年度の成果を蓄積し、次年度からの後輩生徒たちの研究活動の資料をベースとするため生徒の収集した資料及び提出レポート等は全て図書室に保存し、閲覧に供するとともに、その要約の集録を刊行してきた。昭和48年度の第1集にはじまって昭和52年度の第5集まで達している。体裁はB5版400ページである。

第何集としたのは、次年度からの刊行を前提に考えたからである。これによって、一年毎に生徒の研究内容の質的な向上を期待している。費用の軽減という点からエレファックス印刷によったが、各レポートはすべて、そのグループ全員の手によるものである。随所で誤字や表現の不適當あるいは分析の誤りなどが目立つが、教師は一切手を加えていないし、指示もしていない。それは、レポートの内容も表現も含めて、生徒の作品をすべてありのままに示すということが、一つの教育的立場だと考えたからである。

要約集録に示されているテーマは以下の通りである。

「さっぽろ」1・2・3・4・5集の研究テーマ

◆ 第1集（昭和48年度）

【歴 史】

- (1) 札幌に残る歴史的建物
- (2) 札幌市民と時計台
- (3) 札幌市における地名研究
- (4) 札幌市と屯田兵
- (5) 北陵高校仮校舎（一条校舎）の歴史
- (6) 札幌と寺社・教会の歴史
- (7) 狸小路の歴史と現況
- (8) 札幌市民と豊平館

【河 川 ・ 山】

- (9) 豊平川についての地理的研究
- (10) 札幌市における豊平川の役割
- (11) 創成川の歴史とその役割
- (12) 藻岩山の地理的研究

【公 園 ・ 緑】

- (13) 札幌市の公園について
- (14) 札幌市の公園について

- (15) 大通り公園の研究
- (16) 公共施設の利用について—札幌市の公園—
- (17) 札幌市の緑地について
- (18) 札幌の街路樹についての研究
- (19) ONLY ONE SAPPORO—札幌の自然—
- (20) 札幌市の観光資源

【都市計画・地価】

- (21) 札幌市の都市計画
- (22) 指定都市札幌の区について
- (23) 私たちの郷土・札幌市の未来
- (24) 札幌市における地価問題
- (25) 札幌市の地価について

【人 口】

- (26) 札幌市の人口動態について
- (27) 札幌市の人口について

【交 通】

- (28) 都市交通の発達と問題点—札幌の場合—
- (29) 札幌市における交通事故の現況
- (30) 地下鉄開通と北24条の変化
- (31) 札幌駅を中心とした道内のおもな駅の現状

【電 力】

- (32) 札幌市の電力事情について
- (33) 札幌市における電力事情

【企 業】

- (34) 札幌における本州企業
- (35) 札幌とビール工場

【住 宅】

- (36) 団地の研究—もみじ台団地の場合—
- (37) 札幌市における団地について—もみじ台団地・青葉町台地・ひばりヶ丘団地—
- (38) 札幌市における住宅地の分布と環境
- (39) 札幌市にみられる都市化

【公害・ゴミ】

- (40) 札幌市における河川公害
- (41) 札幌市におけるゴミ問題
- (42) 札幌市の清掃状況

【犯罪・非行】

- (43) 札幌市にみられる犯罪について
- (44) 札幌市における青少年非行について

【オリンピック】

- (45) 札幌オリンピックが残したもの
- (46) 冬季オリンピックと札幌の変化

【福祉・医療】

- (47) 郷土の社会福祉について考える
- (48) 札幌市の福祉について
- (49) 札幌市の福祉施設について
- (50) 札幌市における幼児教育について
- (51) 札幌市における医療機関の分布
- (52) 札幌市における医療機関

【そ の 他】

- (53) 札幌市における近効農業
- (54) 札幌市における生鮮食品の流通について
- (55) 札幌の消防の現況
- (56) 郷土と有島武郎

◆ 第2集（昭和49年度）

【地 域 研 究】

- (1) 北大前商店街の地理的研究
- (2) 桑園地域の地理的研究
- (3) 一条周辺地域の地理的研究
- (4) 狸小路商店街の地域研究
- (5) 狸小路商店街についての研究
- (6) 大通公園地域の地理的研究
- (7) 札幌駅前通りの地域的特色について
- (8) 苗穂地域の地理的研究
- (9) 北24条周辺地域の地理的研究
- (10) 円山地域の歴史についての研究
- (11) 円山地域の地理的研究
- (12) 円山と新琴似地域の地域性についての研究
- (13) 新川地域の地理的研究
- (14) 西区八軒地域の地理的研究
- (15) 発寒工業団についての地理的研究
- (16) 琴似地域の地理的研究
- (17) 丘珠街道の地理的研究
- (18) 新琴似地域にみられる都市化現象
- (19) 新琴似地域の地理的研究
- (20) 屯田地域の地理的研究
- (21) 篠路地域の地理的研究

【歴 史】

- (22) 創成川の歴史と流域にみられる都市問題
- (23) 新琴似・屯田地域の発展と屯田兵制度
- (24) 新琴似地域の歴史的研究
- (25) 屯田地域の歴史と地理的研究
- (26) 篠路歌舞伎について
- (27) 札幌市内にみられる文化財とその問題点について
- (28) 市内に残る古い石碑の分布について
- (29) 札幌にみられる石碑の分布について

【河 川 ・ 山】

- (30) 札幌扇状地にみられるメムについての研究
- (31) 札幌扇状地にみられるメムについての研究
- (32) 創成川流域の地域研究

【公 園 ・ 緑】

- (33) 都市生活と公園について
- (34) 札幌市の観光産業について
- (35) 札幌市の公園と緑

【都 市 計 画】

- (36) 札幌市の都市計画と厚別副都市
- (37) 都心商店街地域と地下街の役割
- (38) 札幌市の人口増加と住宅問題
- (39) 札幌にみられる都心化現象と石狩町の役割
- (40) 札幌市における中・高層建築物とその発展

【人 口】

- (41) 発展する札幌と人口

【都 市 交 通】

- (42) 札幌市の地下鉄についての研究
- (43) 都市交通の発達と地下鉄
- (44) 都市交通の発達と地下鉄東西線

- (45) 都市交通と地下鉄について
- (46) 市民生活と地下鉄について
- (47) 都市交通の変化と路面電車
- (48) 札幌市の交通（市電）
- (49) 札幌市内国鉄各駅と都市交通
- (50) 札幌における鉄道交通について

【経 済 活 動】

- (51) 札幌市における百貨店についての研究
- (52) 札幌市の周辺商店街の分布と地域の特色
- (53) 札幌市における生鮮食料品の流通
- (54) 札幌市民の生活と物価問題
- (55) 札幌市における飲食店の分布と現状について
- (56) 二条市場の発達と役割
- (57) 二条市場についての研究
- (58) 市民生活と二条市場について
- (59) 近郊農業にみられる札幌の変化

【公 害 ・ ゴ ミ】

- (60) 札幌市にみられる都市公害について
- (61) 札幌市にみられる都市公害の現状
- (62) 発寒川にみられる都市公害
- (63) 都市生活と日照権（札幌市の場合）
- (64) 都市生活と水

【福 祉 ・ 医 療】

- (65) 札幌市の身体障害者福祉について
- (66) 札幌市の養護施設を調査して

【社 会】

- (67) 政党支持からみた札幌市の地域的特色
- (68) 札幌市における寺社の分布と宗教
- (69) 札幌市におけるキリスト教の歴史と現況
- (70) エドウィン・ダンと北海道開拓
- (71) 姉妹都市ポートランドと札幌市
- (72) 札幌市における外国人の生活と意識

- (73) 外国人のみた郷土札幌
- (74) 札幌における外国人の生活と意識
- (75) 外国人のみた札幌（意識調査から）
- (76) 札幌市民意識と自衛隊
- (77) 都心部における通学高校生の動き
- (78) 降雪と都市生活（札幌市の除雪対策について）
- (79) 都市生活と災害について
- (80) 札幌市における火災発生の歴史と分布

◆ 第3集（昭和50年度）

【地 域 調 査】

- (1) 札幌市における地名の変遷について
- (2) 山の手地域の地理的研究
- (3) 新琴似地域の地理的研究
- (4) 新琴似商店街についての地域研究
- (5) 新琴似商店街の地理的研究
- (6) 札幌市における中心商店街としての狸小路について
- (7) 丘珠鉄工団地の立地条件についての調査
- (8) 北42条商店街についての地理的研究
- (9) 札幌新道周辺地域の地理的研究

【歴 史】

- (10) 札幌市北区にみられる屯田兵の遺構について
- (11) 新琴似にみられる屯田兵の遺構について
- (12) 北24条付近の発達と歴史
- (13) 篠路地域の農業発達史

【河 川 ・ 山】

- (14) 豊平川—その変貌—

【農 業】

- (15) 篠路地域にみられる農業についての地理研究
- (16) 丘珠地域にみるたまねぎ栽培について

【公園・緑・レクリエーション】

- (17) 屯田地域にみられる防風林について
- (18) 都市生活とレクリエーション—円山周辺地域の調査—
- (19) 都市生活と公園—大通公園の調査から—
- (20) 札幌と近郊のスキー場開発史
- (21) 札幌近郊のスキー場についての調査
- (22) 札幌近郊におけるスキー場の立地条件
- (23) 札幌周辺にみられるスキー場について

【住 宅 ・ 団 地】

- (24) 住宅団地の立地について
- (25) 北区における住宅団地の調査
- (26) 北区屯田地域における二つの団地にみられる住民意識
- (27) 冬期オリンピック後の五輪団地利用についての調査
- (28) 真駒内五輪団地の地理的研究

【人 口】

- (29) 死亡原因からみた札幌市の人口動態

【都市交通・通信】

- (30) 石狩街道についての地理的研究
- (31) 札幌市営バス路線についての調査
- (32) 札幌の路面電車についての調査
- (33) 札幌市における路面電車の発達についての調査
- (34) 札幌における交通体系の変化—路面電車から地下鉄へ—

- (35) 新琴似の都市交通についての調査研究
- (36) 札幌市の地下鉄についての調査
- (37) 札幌近郊の国鉄駅の利用状況についての調査
- (38) 札幌市の交通発達史一定山溪鉄道と札幌一
- (39) 札幌と丘珠飛行場
- (40) 千歳空港と札幌空港の比較について
- (41) 札幌市における放送事業とスポンサーについての研究
- (42) 都市生活と電話について
- (43) 都市生活と電力について

【経 済 活 動】

- (44) 札幌市における支店等事業所の集積について
- (45) 札幌市中心部における保険会社の立地
- (46) 札幌市における豆腐店の分布と立地
- (47) 札幌市における公衆浴場についての研究
- (48) 札幌市における暖房燃料の需要についての調査
- (49) 楽器の消費からみた札幌の商圈について
- (50) 新琴似地域にみられる漬物工場の分布について
- (51) 札幌市における倉庫立地の変容について
- (52) 清涼飲料水の消費等についての調査
- (53) ビール工業についての調査
- (54) 札幌とB E E Rの関係
- (55) 札幌市の中心街における百貨店の立地について
- (56) 札幌市内にみられる百貨店についての調査
- (57) 札幌市における生鮮食料品の流通
- (58) 札幌市における生鮮食料品の流通について
一牛乳の場合一
- (59) 飲食店等の分布からみた北 2 4 条周辺地域の特色

【都 市 公 害】

- (60) 新聞報道による札幌市の公害日誌
- (61) 札幌市にみられる都市公害と市民意識

【上 下 水 道】

- (62) 上水道の需要量からみた札幌市の特色
- (63) 都市生活における上下水道について
- (64) 札幌市の下水処理についての調査
- (65) 札幌市における下水道についての調査

【福 祉 ・ 医 療】

- (66) 札幌市における医療機関の分布について
- (67) 札幌市における医療機関の分布について
- (68) 市民生活と医療機関とのかかわりについての調査
- (69) 札幌市の老人福祉についての調査
- (70) 札幌市における老人福祉と住民意識について

【社 会】

- (71) 北区における寺院の分布とその特色
- (72) 札幌市中心部における都市防災について
- (73) 札幌市における高層建築物の防災についての調査
- (74) 札幌市における通学高校生の意識調査
- (75) 高校生の志望選択についての調査分析
- (76) 北陵高校生の通学の現況について
- (77) 都市における犯罪について 一札幌市北区を例に一
- (78) 札幌市における青少年の非行傾向についての調査
- (79) 札幌市における青少年の非行についての調査

◆ 第4集（昭和51年度）

- (1) 札幌市都心部における人口動態について
- (2) 旧東区・東北区の地域性
- (3) 苗穂地区における人口動態
- (4) 創成地区の都市環境
- (5) 山鼻・東屯田通商店街の特色とその変化
- (6) 都市環境における中島公園の地理
- (7) 山鼻地域における住宅環境
- (8) 山鼻地域の交通について
- (9) 桑園地区の地域性について
- (10) 生鮮食料品の流通と中央卸売市場
- (11) 生鮮食料品の流通と中央卸売市場
- (12) 桑園・大通地区の地域性
- (13) 山鼻地域の住宅について
- (14) 円山地域の住宅地としての地域性について
- (15) 地下鉄円山公園駅の開業による地域の変化
- (16) 都市環境と旭山記念公園
- (17) 界川町の地理的研究
- (18) 旭ヶ丘地域における大型商店の進出について
- (19) 伏見地域の地理的研究
- (20) 宮の森の土地利用について
- (21) 都市交通と札幌駅
- (22) 幌北地区における人口と住宅の変動
- (23) 北海道大学周辺地域の変化
- (24) 札幌市北区の交通について
- (25) 麻生地域の地理的研究
- (26) 交通体系の変化と麻生町商店街
- (27) 札幌市の発展と新川の役割
- (28) 新琴似の住宅と都市環境
- (29) 新琴似南西部の土地利用の変化について
- (30) 新琴似地域の人口動態について
- (31) 新琴似の都市化と食品工業
- (32) 新琴似の住宅について
- (33) 屯田団地の交通について
- (34) 篠路太平地域の地理的研究
- (35) 篠路太平地区の地理的研究
- (36) 篠路地域のあゆみ
- (37) 篠路の発展と人々
- (38) 茨戸における農業のあゆみ
- (39) 茨戸の地理と歴史
- (40) 篠路地域の地理と歴史
- (41) 篠路拓北地域の産業立地と自然条件
- (42) 札幌市における文具の流通について
- (43) 苗穂地区の工場集積について
- (44) 山の手地域の住宅と土地利用
- (45) 石狩街道沿の商店街の形成
- (46) 北光・北栄区の地理的研究
- (47) 札幌市における自動販売機の実態について
- (48) 元町の発展と大友亀太郎
- (49) 北栄地区の都市化と人口の変動
- (50) 元町注域の農業の発展とその変化について
- (51) 新興住宅地としての栄町の特色
- (52) 北24条商店街の形成についての研究
- (53) 栄町の人口と土地利用の変化
- (54) 東苗穂地域の土地利用の変化
- (55) 札幌の玉ねぎ栽培について
- (56) 地下鉄東西線の開通と菊水地区の変化
- (57) 地下鉄東西線の開通による白石地区の変化
- (58) 米里・東米里地域の農業と都市化について
- (59) 厚別副都心計画について
- (60) 中の島・平岸地区における住民意識の調査
- (61) 平岸のリンゴ栽培と地域の変化
- (62) 平岸霊園とその地域の特色
- (63) 羊ヶ丘と観光資源
- (64) 藻岩山の土地利用について
- (65) 真駒内における自衛隊の駐とんと住民意識
- (66) 八軒地区の住宅環境についての研究
- (67) 都市環境と処理場の役割
- (68) 八軒地域の住宅環境について
- (69) 八軒地域の産業の変化について
- (70) 地下鉄東西線の開通による琴似商店街の変化
- (71) 山の手地域における住宅地の特色
- (72) 手稲西野地域の都市化について
- (73) 発寒鉄工団地について

◆ 第5集（昭和52年度）

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| (1) 札幌市における青少年非行の特色について | (41) 発寒工業団地と周辺の地理研究 |
| (2) 札幌丘珠飛行場のあゆみとその利用 | (42) 都市計画と厚別副都心 |
| (3) 札幌市内に分布する銅像について | (43) 北24条商店街の特色 |
| (4) 屯田地域の住宅環境について | (44) 札幌の観光資源として的大通公園の役割 |
| (5) 北24条駅周辺の商店街の特色について | (45) 札幌市地下商店街の防災について |
| (6) 札幌市とオリンピック | (46) 本校の通学生の実態について |
| (7) 札幌市民と大通公園について | (47) 札幌市民と中島公園 |
| (8) 新琴似地域の地理的研究 | (48) 狸小路商店街の特色 |
| (9) 北大前通商店街の特色と変化について | (49) 札幌市の主要河川の汚濁について |
| (10) 北区にみられる青少年の非行について | (50) 地下鉄北24条駅について |
| (11) 札幌市の人口における産業別就業人口 | (51) 狸小路商店街の地理的研究 |
| (12) 札幌市の公園について | (52) 札幌市における医療機関の地理的分布 |
| (13) 札幌オリンピックの再誘致について | (53) 札幌市におけるキリスト教の歴史と教会の分布 |
| (14) 琴似商店街の地理的研究 | (54) 札幌市における幼稚園の分布について |
| (15) 札幌の路面電車について | (55) 札幌市北区にみられる青少年非行の特色 |
| (16) 都市交通と地下鉄の役割 | (56) 老人福祉施設の地理的環境について |
| (17) 札幌における浴場の分布と特色について | (57) 琴似駅前商店街の地理的研究 |
| (18) 狸小路商店街の特色について | (58) 札幌における青少年犯罪—都心部の場合— |
| (19) 狸小路商店街の地理的な特色 | (59) 札幌市民とマスコミュニケーション |
| (20) 札幌市における医療機関の分布について | (60) 都市交通と地下鉄の役割 |
| (21) 札幌市の都市計画と交通について | (61) 札幌の地名についての研究 |
| (22) 札幌におけるスキー場の分布と特色 | (62) 札幌市の公園についての研究 |
| (23) 札幌オリンピックの再開を考える | (63) 石狩北学区における高校通学生の状況 |
| (24) 札幌オリンピックと交通網の発達 | (64) 札幌にみられる百貨店の特色 |
| (25) 丘珠飛行場の利用について—自衛隊の場合— | (65) 札幌市にみられる都市公害の例 |
| (26) 札幌市における住宅団地について—屯田団地・もみじ台団地の場合 | (66) 札幌市における社会福祉施設の特色について |
| (27) 手稲山とその自然 | (67) 札幌市の都市交通と地下鉄 |
| (28) 北区の住宅と人口の特色 | (68) 札幌市北区・東区にみられる青少年犯罪の特色 |
| (29) 札幌市の公園についての研究 | (69) 札幌市における公共スポーツ施設の分布 |
| (30) 大通道遙地の土地利用について | (70) 札幌の地名について考える |
| (31) 札幌市における養護施設について | (71) 札幌市とオリンピック |
| (32) 創成川の歴史とその役割について | (72) 札幌市民と大通公園 |
| (33) アイヌ語による札幌の地名について | (73) 札幌駅前通りとその周辺地域の特色について |
| (34) 札幌市北区における医療機関の分布 | (74) 札幌の都心部にみられる百貨店と専門店の特色 |
| (35) 北区における寺院の分布についての特色 | (75) 新琴似四番通商店街の特色と歴史 |
| (36) 札幌市における青少年非行について | (76) 札幌市の大気汚染について |
| (37) 地下鉄南北線の延長による札幌北部地域の変化について | (77) 札幌におけるデパートの分布と商業地域の形成 |
| (38) 大通公園の概要と市民の意識 | (78) 北24条商店街の特色について |
| (39) 青少年の非行について—中央区の場合— | (79) 札幌市における犯罪の特色について |
| (40) 札幌市における高等学校の分布の特色 | (80) 札幌市のパーソントリップの調査から |

6 生徒の反応

＜座 談 会＞

地理野外調査「さっぽろ」5年をふりかえって

＜と き＞ 昭和53年3月11日（土）

＜と ころ＞ 札幌北陵高等学校社会科教室

二期生

四期生

六期生

教 師

本校の二期生（昭和48年度入学）から始まった地理の野外調査も、早いもので5年が経過し、間もなくその研究集録である「さっぽろ」第5集が刊行されます。そこで今日は、最初に野外調査を経験した二期生の先輩から、今、最後のまとめを行なっている1年生（六期生）までの皆さんに集まってもらって、地理野外調査「さっぽろ」5年をふりかえってみたいと思います。

はじめに、先生の方から、野外調査のねらいはどんなところにあったのか話していただきます。

本当の社会科の力とは一体どんなものをいうのか。それは簡単にいうと、自分たちで何かを調べられる力、自分たちに必要な資料を捜す力、そしてそれらをまとめる力、しかも、それらの行動がひとりでやるのではなくて、何人かのチームを組んで行なう研究能力は非常に大切なものだと思う。そして、そのような人間になってほしいというのが教育的な観点からのねらいです。

一方、郷土という自分たちの住んでいる場所をきちっと見れる、札幌の街を少しでも理解できる、外から誰れかが訪れた時に、自分の街を紹介できることをねらっています。

まず、テーマづくりにひと苦労

グループを作る時に、どういうわけか私の班はわずか2人で構成することになりました。それで、校外で調査活動をする場合には非常に行動しやすくて助かりましたが、調査の結果を分析し、レポートにまとめるときには、逆に人数が少なくて非常に苦労したことが強く印象に残っています。私たちの研究テーマは、札幌市の都市通信の状況を調べました。

私たちのグループのテーマは、北24条駅周辺の地理でした。今ふり返ってみて、ずい分と歩きまわったなあという印象が残っています。調査の段階では夢中で歩き巡りましたが、今時々歩いてみて、また違った面で

愛着が残っています。野外調査を行なうことによって、この周辺が、自分の庭のように思っています。

私たちのテーマは、幌北地区の地理でしたが、いざ調査を始めると、具体的に何を調べたらよいのかで苦勞しました。この地区は、住宅地なんです、人間が住んでいて、家屋があって、所どころに商店があっていうだけで、その中で何を調査するのか、調べる中で、だんだんと内容が変化してしまいました。最後にテーマと内容が一致しなくて困りました。

テーマが定まらなくて、毎年苦勞してみたいですね。テーマを作ることがまず第一の苦勞ですね。

私たちのテーマは、札幌新道の研究でした。一番苦勞した点は、最後のまとめの段階で、全体の構成をどのようにしたらよいかでした。調査では、札幌新道を何度も歩きました。雨の中をとぼとぼ歩いて、何のためにこんなことをやっているのか考えてしまったこともありました。

5回の野外調査の中で、君のグループの研究テーマはひとつだけでしたね。新

道周辺の公害なども扱い、なかなか内容のあるすばらしい研究だったと思います。調査地域が広いだけに大変でしたよね。

資料さがしにかけ回る

これまで意見を述べてもらった皆さんはいずれも新校舎に移ってからの調査だったけれども、2回までの野外調査は旧一条校舎時代でした。北陵高校もスタートしたばかり、野外調査も初めてです。最初の諸君の感想はどうですか。

私は、一条橋の旧仮校舎が好きでした。それでテーマは、この一条校舎のルーツをたどって調べたわけですが、40年以上もの古い建物でしたので、古い資料がなくて苦勞しました。新聞社の資料室にも行きましたが、当時の新聞も見当たらず、いろいろと歩き回りました。市立図書館や北大も行ってみました。しかし、私たちの求める資料はありませんでした。そこで気がついたのは、古くから近くに住んでいる人に会ってみようということになり、何人もの人々から聞きました。助りました。

君たちのグループは非常に古い学校日誌をさがしてきましたね。

今の中央小学校の資料室にあったもので、当時の尋常小学校のものです。書いてある内容は非常に参考になりました。しかし、書いてあることが古いもので、知らない漢字なども多くて読むのに苦勞しました。

二期生の君のグループのテーマは何でしたか。





テーマは札幌市の都市交通についてでした。札幌オリンピックの直後で、地下鉄が開通したり、新しい道路ができたりして、最初は興味半分でこのようなテーマにしたのですが、いざ調査する時になって、あまりにもテーマが大きすぎて、結果的には焦点ぼけになったのが残念です。苦労したのは、交通局の人たちにお会いした時です。高校に入っすぐの時でしたし、何もわからない状態で、学校からの紹介状一通を持って、交通局のいろいろな係の人たちをたずねまわったことです。私がその担当だったので、この苦労が強く印象に残っています。

最初は、私たちにとっても初めての経験ですので苦労しましたよ。資料がどんな所にあるのか尋ねられてもわからないし、私たち自身の勉強でもありました。

初めは、二人の先生でいろいろ考え、長い時間話し合いました。私たちも皆さんと同じスタートだったんですね。

「さっぽろ」5集は総集編

皆さんの野外調査も、今年で5年目になりました。それで、今年は、これまでの5年の総まとめということで、過去4年間の先

輩の研究をもう一度洗いなおしてみようということやってます。

先輩のレポートを見ながら、どんなテーマにしようかと苦労しました。結果的には、札幌の地下鉄を調べることになったのですが、寺院の分布はどうか、茨戸の地理にしようかと迷いました。日曜日など、実際に地下鉄に乗って調査しましたが、資料は沢山あり集めました。それを分析してまとめるのに苦労しました。

私たちは、市内の団地の比較ということで、屯田ともみじ台団地の特色をみました。一応、関係のある先輩のレポートは全部読んでみました。レポートを読むのに時間がかかりましたが、それらの資料をまとめましたので、割と楽にやれました。読んでいて、先輩は大変よくしらべてあるのに感心しました。

私は、さんと同じ班でしたが、日曜日に弁当を持って学校に集まり、遊びながらやったようで、さんも話しましたが、楽しみながらやったといえます。

ありがとう!!市民の協力

最初に始めた二期生は、本当に無からのスタートで、苦労の連続だったわけですが、その後は、先輩の跡を歩んで、だんだんとすばらしい野外調査が進められました。しかし、新しいテーマに取り組めば、それなりに困った点などがあったと思うのだが、どうでしたか。

はっきり言って、グループの人間関係では困りました。。テーマについて、グループが二つに分かれてしまい、そのために実際の調査に入るのが大巾に遅れてしまい、結果的には、先生に相談して二つのグループに分か

れて、違うテーマで調査したわけです。そうすると人数が3～4名と非常に少ないことになり、またまた苦労しました。

グループの人間関係で苦労したグループは最初の頃からありましたね。しかし、この苦しみは、地理の勉強とは直接関係はないにしても、良い経験でなかったでしょうか。つまり、これからの世の中は、一人や二人で物事をやれる時代ではありません。多くの仲間の協力があって、始めて素晴らしい内容のある仕事ができるものです。これからも、この経験をぜひ生かして下さい。

交通局の人にインタビューをした時のことを思い出します。私たちの質問の仕方もよくなかったとは思いますが、私たちの質問したことについてなかなか答えてもらえなくて困ってしまいました。

さんと同じような例なのですが、私たちはアンケートで苦労しました。身知らぬ人に、突然アンケートするのですから、なかなかやりにくくて、結果的に非常に少ない数で終わってしまいました。

今の意見にもありましたが、それぞれのテーマによって、聞き込み調査や、アンケート調査をやりましたが、全体的にみて、札幌市民はこの調査に協力的だったでしょうか。

個人的にはよく協力してくれたと思います。例えば、市立図書館などでは、このためにひとりの人が親身になってやってくれました。私たちのテーマは学校のことなのに、市教委では、最初から資料が無いということで断われたこともありました。資料がないのは仕方ないとして、どこに行ったら私たちに必要なものの一部でも得られるのかを教えてくださいました。

学校についての資料は、その学校が廃

校や統合されると散逸してしまうものなのですね。その意味では、どこかの機関で資料をきっちと保存してほしいものですね。

幸い一条校舎関係の資料は、中央小学校にある程度は保存されてます。

札幌新道についての調査では、開発局に何度も足を運びました。大変よく教えて下さって感謝してます。

地下鉄の各駅の人たちは、忙しいのに大変親切だったと思います。ただ真駒内駅では、悪いことにラッシュアワーだったので、駅員の方に迷惑をかけてしまいました。調査する時は、あらかじめ電話でもして、相手の都合をおききしてから行くことが大切だと思います。

市役所ではどうでしたか。実は、ある時に市役所から苦情がありましてね。というのは、北陵の生徒が、同じ事を聞きに何度も来るので仕事にならないというのです。同じ事を聞くのなら、同時に説明するので、いっしょに来てくれないのかということなのです。それは、その通りなのだが、グループによっては、日程も、テーマによっては多少質問する内容もちがいますしね。

私の印象としては、市役所の皆さんは



大変親切だった。本当かどうかわかりません

が、私が行った時には、「北陵係」という人がいまして、すぐにそちらにまわされましたよ。そして、外には絶対に見せないというものも見せてくれました。市役所は非常に協力的でした。

先ほど 君の意見にもありましたが、先方は忙がしい仕事をしているのですから、あらかじめ電話なりで相手の都合をうかがうのは礼儀だと思います。社会に出てみて、よくわかるのですが、それは常識だと思います。

貴重な、生きた勉強——野外調査

ところで、この中にはすでに卒業して社会に出ている者もいるのだが、高校時代のこの勉強が、君たちの日常生活の中で役立っている面、直接生きている点はないだろうか。

直接生活の上で役立っているというわけではないが、今でも弁論の活動をやっている、ひとつの論旨をまとめるという点で、この野外調査で経験したように、自分に必要な資料を集め、それを選択し、まとめるという作業は大変役立っているといえます。

私の高校時代は社会科バカで、社会科をやるために北陵に入ったみたいなもんです。大学もその通りで残念ながら地理学科ではないが、今は社会学科で勉強しているが、この中で地域調査などもあり、直接高校時代の野外調査は生きています。

卒業生の中で、今の 君のような例がありましてね、去年は3人ほど来ました。課題のレポートを作るのだから参考にしたいということでした。そういうことで高校時代の勉強が役立っているのは私たちにとってうれしいことです。

そういう例では、北陵の卒業生ではな

いのだが、新聞で野外調査のことを知り、北大農学部が訪ねてきたことがありました。

私たちは、最後のまとめの段階で各章ごとに分担しました。しかし、私は班長だったために、それをさらに全体的にまとめる役目です。文章を整理したり、構成したりといった、文章のまとめ方について、大変勉強になりました。何度もなおしてくれた先生方に感謝しています。

私はまだ2年生で、やっと終わったばかりで、特に役に立つという経験はありませんが、多くの資料の中から自分たちの必要なものを引き出し、それをひとつの文章にまとめ上げるという作業は、社会に出てからも必ず出合う仕事だと思います。きっと役立つことだと思います。

文章のまとめ方などで勉強になったという意見がありましたが、私は別の点で言うならば、地域を調査する中で、小さな地域も知れないが、私の生れ育ったこの札幌を少しでも自分が問題意識を持って観察できたという点です。

北陵高校でやっている野外調査は、道内高校ではあまり例のないものです。昨年から札幌南高が、山鼻屯田兵の調査を始めましたが、まだまだ数少ない勉強です。そんなこともあって、研究集録「さっぽろ」第1集が出た時から毎年、新聞やTVで紹介されてきました（具体的にはP 21 参照）。「さっぽろ」第2号では、二期生の さんと 君が、TVによる札幌市の広報番組「さっぽろわが街」に出演して、PRしてくれました。その さんに意見をのべてもらいましょう。

私たちの研究は、地理から少し離れましたが、開拓当初から伝わる郷土芸能の篠路

歌舞伎について調べました。調査段階では、先にもありましたが苦勞しました。しかし、今まで全く知らなかったものが、調査の結果少しでもわかったということは、本当にうれしいことでした。



私たちは発寒工業団地を調査しました。やはりグループの和をつくるのに苦勞しました。人の関係の難しさをしみじみ感じました。しかし、今、大学で家政科のレポートなどをまとめているのですが、その作業の中で文章をまとめるという点では、高校時代の地理の野外調査は本当に役立っております。本当の勉強というのは、こういうものではないでしょうか。社会に出てから役立つ勉強をもっともっと教えていただきたいと思います。そういう意味で、高校時代の地理の勉強は生きた勉強だったと思います。

私は　　さんの意見に同感です。この野外調査は、郷土を少しでも知るということでは地理の勉強にはなりました。しかし、そのことと同時に、文章のまとめ方、報告文の書き方といった実際面で訓練になったと思うのです。

屯田地域を調べていて、この地域に愛着を持てたことは確かです。先輩の意見にも

ありましたが、文章を書くことでは苦勞しましたが、同時に勉強になりました。

別の面で言えば、この勉強によって、新聞、雑誌、市の広報紙などに非常に関心を持つようになりました。特に、市のPR「広報さっぽろ」はよく見るようになりました。私は白石区に住んでいますが、野外調査で歩いた篠路の記事が少しでも出ていると、本当にうれしいのです。自分の住んでいる所のように思うのです。

今の　　さんの意見は大変大切なことだと思います。都会の砂漠などと、とにかく都会は人間関係が冷たく、人の心をかさかささせる面が多いのですが、どんな小さな所でもよいから、その地域を知ることによって郷土を発見し、郷土愛を持つことですね。これは本当に大切なことだと思います。特に札幌のように大都会になりますと……。

調査の地域をもっと広げては……

最初にものべたのだが、北陵で地理の野外調査を始めて5年になりました。私たちは、この辺でこの方法はひとくぎりして、来年から、又新しくスタートしようと思っているのだが、これについてどう思いますか。

こういう物は後で読んでみることができるし、その時に高校時代の自分を振り返えられるし、続けた方がよいと思います。

先にも話しはありましたが、郷土に愛情を持つということは、郷土を知ることから始まると思うのです。そのために北陵の地理でやっている勉強はすばらしいと思うし、ぜひ続けてもらいたいと思います。

レポート作制という仕事を協力し合いながらやりとげるといことは高校時代の貴

重な経験だと思う。日常の勉強の中では地理の外にこういう場面がないわけです。ぜひ続けてほしい。

グループのレポートを書き上げて一冊の本に製本した時と、研究誌「さっぽろ」を手にした時のよろこびは、今でも強く印象に残っています。後輩もぜひこの感激を味わってもらいたいと思います。それから出来たら他の高校でもやってもらいたい。というのは、私たちは、札幌市をまとめてみました。旭川の高校では旭川市を、というように全道各地で調査をやったら本当にすばらしいものができると思うのですが。

これからも続けてもらいたいことは勿論ですが、調査の方法で、文献による調査もよいが、もっと多く外に出て、歩いて調査するテーマを考えてもらいたいと思う。

方法についてもっと大胆に考えなおしてはどうだろうか。地理Bのカリキュラムでやっているのだけれどもこれを思い切って地理Aにして、その中で集落とか、交通とかということを勉強すれば、それが即札幌の野外調査になると思います。

今日は、本当に楽しい意義のある時間を持てました。春休みということもありましたが、京都の大学に入っている二期生の君も出席してもらい、二期生から六期生まで集ってもらい感謝しています。私たち二人の教師は、君たちの築いてくれた実践の上に、更にすばらしい後輩の研究を積み重ねることを約束して、今日の座談会を終わります。ありがとう。



<アンケート>

アンケート「地理野外調査を終えて」

●
アンケート集計結果 — 1976年3月実施 450名中の320名分の集計 —

昭和50年度の地理野外調査についてあなたの意見を聞かせて下さい。

1. 全体的にみて、勉強になりましたか。

①勉強になったと思う(54.1%) ②あんまり勉強にならなかった(27.2%)

③どちらとも言えない(18.7%)

主な意見——地理は教科書だけの知識でないことがわかった。社会勉強になった。人間成長に役立った。自分達で苦労して調べたりレポートをつくることの素晴しさがわかった。来年もつづけたらよい。意欲がわかなかった。喜びよりも辛いことが多かった。時間がかかりすぎた。金がかかった。義務感だけからやった。やめた方がよい。

2. 札幌について理解は深まりましたか。

①深まったと思う。(47.5%) ②深まらなかった(18.4%) ③どちらとも言えない(34.1%)

主な意見——調べた項目や地域に関しては理解が深まったが、札幌全体については深まったとは言えない。新聞の市内版に興味を持つようになった。札幌を身近に感じた。意外と札幌について知らないことが多いことに気づいた。他のグループのを見て深まった。人情の薄さを感じた。今回の方法では札幌を理解できない。

3. あなたの調査能力(調査方法・資料の収集と処理・聞き取り・報告書の作成など)の向上に役立ったと思いますか。

①役立ったと思う(53.4%) ②役立たなかった(16.0%) ③どちらとも言えない(30.6%)

主な意見——初めての経験で勉強になった。市役所・区役所・会社などの訪問で面接方法を勉強した。自分達の意志を伝えることの難しさがわかった。レポートの作成は楽しかった。自分達の調べたことをまとめる力が向上したと思う。文章表現のむづかしさを知った。資料を「あつめる」のではなく「つくる」という経験ができてよかった。積極的にやらなかった・人におしつめた・一部の人しかしなかった・コピーしたところが多いので調査能力は向上しなかった。多くの資料や多くの意見を整理できた。世間の冷たさ・あたたかさが身にしみて感じた。

4. グループの編成・活動や訪問・面接などで、人と人との関係のことで勉強になることがありましたか。

①あった(60.0%) ②特になかった。(40.0%)

主な意見——礼儀の大切さがわかった。人に接する際の言葉使いや態度など大変勉強になった。気の合わないグループだったので、そのことで人の関係の難しさを知った。社会経験の豊かな大人や目上の人との面接には大変注意を要した。質問する身の難しさがわかった。人の親切に接し嬉しかった。大人にタライ回しされた。大人が一生懸命働いているのがわかった。北陵高生としての自覚

が深まった。真剣に親切に教えてくれる人に会えて嬉しかった。高校生でも社会の人との接触は大切だと思った。多くの人と接したので自分の視野が広まったようだ。約束を破ることは恐しいことだと知った。きちんとと言っても年寄だったりしてなかなか通じなかった。グループ内で責任のなすり合いなどみにくさもあった。友情が深まった。調査方法が悪いとしかられたこともあった。

5. あなたの班のテーマは良かったと思いますか。

①良かったと思う（31.5%）②まあまあだと思う（49.0%）③良くなかったと思う（19.5%）

主な意見——調査範囲が広すぎた。もっと具体的なテーマにするとよかった。テーマ選びの時にもっと時間をかけ検討すべきだった。テーマが大きすぎたようだ。先輩の例をもっと詳しく見るべきだった。札幌が理解できるテーマにすればよかった。良いテーマだったが先輩のものと同じだったので新鮮さに欠けた。新しいもの、季節的なもので資料が少なかった。具体的なテーマにすると良いと思う。自分の家の近くのことを知ることは大変良かった。班長の独断で決めたのでやる気がなくなった。

6. 予備調査から最後の原稿作成の段階まで全体的にみて、あなたはどのように取り組みましたか。

①一生懸命にとりくんだと思う（59.4%）②まあまあやったと思う（21.9%）

③あまり熱心にやらなかった（18.7%）

主な意見——協力的とは言えないか自分の仕事はきちんとやった。協力しない人がいた。最後のまとめはよくやったと思う。やりすぎた感じ。苦しかった。地理でこういう方法をとることには賛成できない。自分で文章をつくるのが苦痛だった。最後になり気が抜けてきた。一生懸命やったけどうまくいかないことが多かった。最後にきてあせった。一人でやらされた。最後に班長にたよってしまったことを反省している。一生懸命やらないとレポートができないからやった。

7. 調査目標の成果はどうだったと思いますか。

①十分あがったと思う（30.6%）②まあまあである（56.9%）③不十分であった（12.5%）

主な意見——調査項目が多すぎた。目標を軽視しがちだったようだ。いそがしくて意見を出し合ったり、深く考えるひまがなかった。やったあという感じ。資料をそのまま記すことが多く、考察が不十分だった。グループ内の討議がなく、各自の分担で終った。調査範囲が広いわりに結構立派なもののできたと思う。資料の整理がうまくできないので使用できなかった。やりだしたらきりがなくなった。調査があまり進まず、目標達成までもう一步だった。よけいなことまでやった。最初から調査が拒絶されたため不十分であった。今まで知らなかったことが少しでも明らかになったことがたいへんうれしかった。

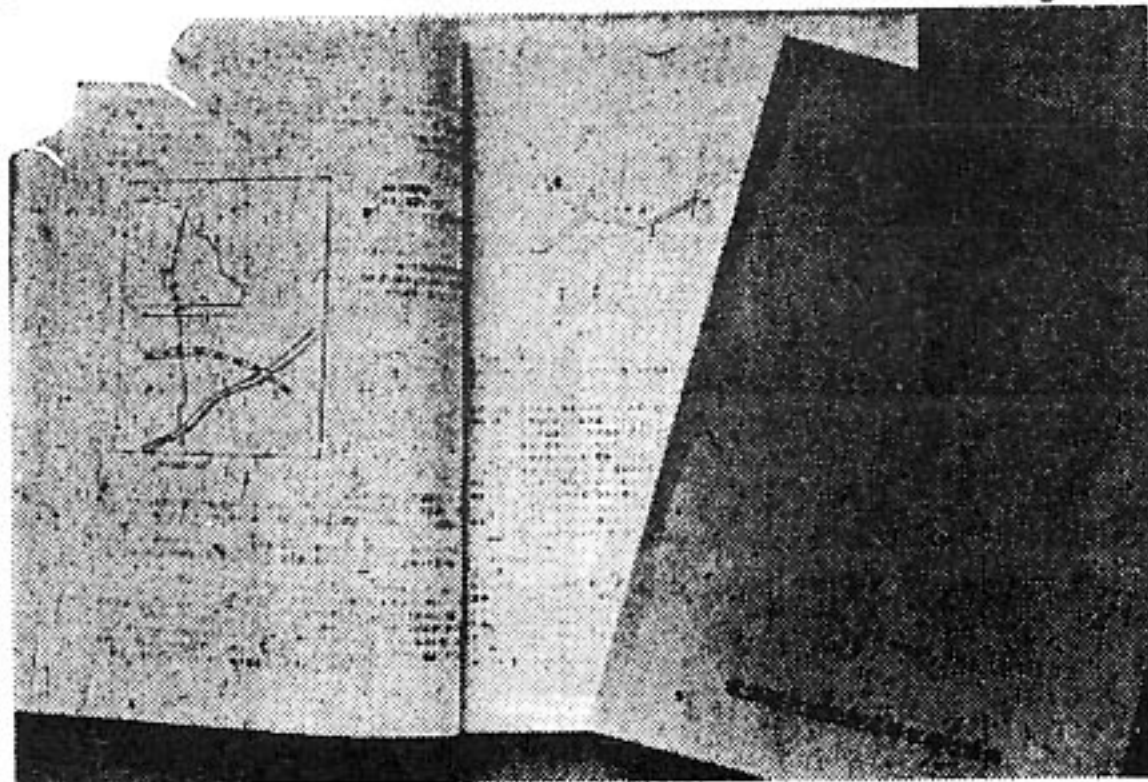
7 新聞報道等

本校の地理野外調査を紙上記事とした新聞と主な見出しは次のとおりである。

- ① 北海道教育新報 (S. 49. 4.15) 北陵高地理レポート (一)
- ② 北海道教育新報 (S. 49. 4.22) 北陵高地理レポート (二) オリンピックで変貌した札幌
- ③ 北海道教育新報 (S. 49. 4.29) 北陵高地理レポート (三) 必要経費に大きな格差、幼稚園教育の実状を探る。
- ④ 北海道新聞 (S. 49. 6.22) 森の都に鋭い目——札幌北陵高、足で書いた「さっぽろ」1年がかり、研究レポート。
- ⑤ 北海道新聞 (S. 49. 7. 2) 札幌地理レポート①、認識は意外に低い、北陵高が調査、大通公園と「札幌っ子、
- ⑥ 北海道新聞 (S. 49. 7. 9) 札幌地理レポート②、意外に関心が低い、テーマ「札幌市民と時計台」
- ⑦ 読売新聞 (S. 50. 5.31) 足で書きあげた地理研究誌「さっぽろ」、札幌北陵高生が第2集刊行、広範な資料400ページに。
- ⑧ 北海タイムス (S. 50. 6. 9) 何と6割が「都心乗り継ぎ」、高校生の通学地獄浮き彫り、北陵高グループが初の調査。
- ⑨ 北海道新聞 (S. 50. 6.16) 札幌北陵高の「さっぽろ」地理研究の好資料
- ⑩ 読売新聞 (S. 51. 9. 6) 高校生がまとめた「さっぽろ」、北陵高一年生の労作刊行、豆腐屋の分布から社会問題まで、「志望選択」「非行」など、自身のテーマも探る。
- ⑪ 朝日新聞 (S. 52.12.14) (教室、高校ってなんだ) 足元から考える習慣を
- ⑫ 北海道新聞 (S. 52.12.20) 郷土のデータならまかして、札幌北陵高、四集重ねた「さっぽろ」(野外調査レポート集)、歴史・地理・環境なんでも、貴重な資料ぎっしり
- ⑬ その他 NHKテレビ、HTBテレビ、市「広報さっぽろ」でも取り上げられた。

8 実践のまとめ

地理学習において、野外調査（out-doorでの地理学習）が不可欠であることに異論をとねえる者はいない。この認識によって小中学校では観察を主とする現地学習が行なわれており、最近では高校でも巡検が一般的に実施されるようになってきた。しかし、われわれは、高校地理の野外調査は単に観察や巡検でとどまるのではなく、実際の調査活動（現地調査・報告書作成等）を伴う学習でなければならないと考えて、5年間にわたって述べてきたような実践を行なった。この学習によって生徒の地理的な見方や考え方をのぼし、グループ活動や社会との直接交渉（訪問・聴取など）を通して、彼等の人間形成にも役立つことができたのではないかと思う。そうして、われわれも学校長、同僚職員はじめ多くの人々や機関の協力を得る過程で実に多くのことを学んだ。なによりも教師として幸せと思えたのは、この野外調査の学習で、自分達の生徒がいかに素晴らしい能力を持ち、いかに素晴らしい人間性を持っているかを発見できたことである。



北陵高生たちの力作「さっぽろ」

森の都に鋭い「 」 札北陵高 の二年生

これからの高校生生活にプラスになる「と乗り気。交通事故などの防止についてあらかじめ十分指導したうえ実施」多ノ。 昨年の六

道立札幌北陵高校(本間末五郎校長)からのほど、生徒自身がまとめた社会科の研究レポート「さっぽろ」第一集が発表(五百部)された。昨年、高校に入学したばかりの二年生全員が、地理の野外学習に取り組み、自分たちで設定したテーマをもとに一年間かけて調べあげた力作。無気力な生徒が増えて問題になっているときだけに、全道でも珍しいこの試みは「生徒の学習意欲を高め、自ら問題解決に立ち向かう態度と能力を身につけるうえで画期的」と道教委もこの成果を高く評価している。

足で書いた「さっぽろ」

一年がかり 研究レポート

学習では、観察力や思考力を育てる一方、表現力や資料を駆使する能力を身につけさせることが大切。そのためには「生徒が自ら見たり聞いたりする具体的な事例を、生徒なりに研究活動していくことが最も良い方法ではないだろうか」と道教委は必す。三百六十四人の生徒がテーマ、広田、木戸口西教諭はその理由を

このグループを設け、七月から十月下旬にかけて放課後や休日を利用して、先生たちがおおむねど熱心な調査・研究活動が行われた。この間、授業時間を利用してグループごとの中間発表や、バスを運んで郊外へ全員で調査にも出かけた。

その後、昨年末から今年の三月末にかけてレポートの作成や発表会などがあって、このほどその集大成ともいえる「さっぽろ」第一集が出来上がった。中には「舞にならぬというのがその理由だ」とし、「二の舞」になるといふ言葉が妙にひかかった」と生々しい感想を述べたレポートもあった。

いすれにせよ、この試みは生徒たちに、やる気、を起させ、自主的な学習態度をつくり出す効果はあったわけだ。同校ではこれを今後、社会科の各分野に及び、今年を対象に拡充していくという。



何と六割が都心乗り継ぎ

北陵高グールが初の調査

改善に役立てば……

一年がかりの労作

この調査は、道立札幌北陵高校（本間末五郎校長、北区中田）の二年生、山川晋里さん、福岡恵美さん、中山三枝子さん、真杉恵子さん、西辻桂子さん、竹内美子さんの六人が一年がかりでまとめたもので、同校では一年生（現二年生）四百六十人が社会科の野外学習で、八十のグループにわかれてそれぞれのテーマで研究しており、山川さんたちの「都心部における通学高校生の動き」もこの一つ。

札幌市内の高校生はきつと四方をとりながら遠くの学校に通う。高校（豊平区月寒）は全校生徒千五百十九人のうち豊平区内から通っているのは、わずかに四百六十人で、千歳市からの百二十六人、恵庭市からの百四十八人も含めて市外からの通学生は五分の一の三百七十八人にもほつている。それ以外、冬休みも返り、放課後ちまわけて資料の収集に歩き回り、札幌市内にある全日制普通校のある公立私立高校、三十五校のうち二十四校について、生徒の住居を調査するの資料を集め、これらを基に、通学といふのは、一日朝含めると、実に六一％が、毎日朝夕のラッシュ時に、交通地獄をか経験している実態がわかった。このように大量の遠距離通学の生徒がいることについて、山川さんたちは「小学区制から大学区制に変わった結果、有名校に成績優秀者が集中し、新設、周辺校との差が開いた。そのため、なるべく進学者の良い高校を望むようになった」と見ている。山川さんたちは、札幌市内と近郊合わせて四十三校全高について調べた予定ではないだろうか、と、素朴な疑問を抱いてはいる。

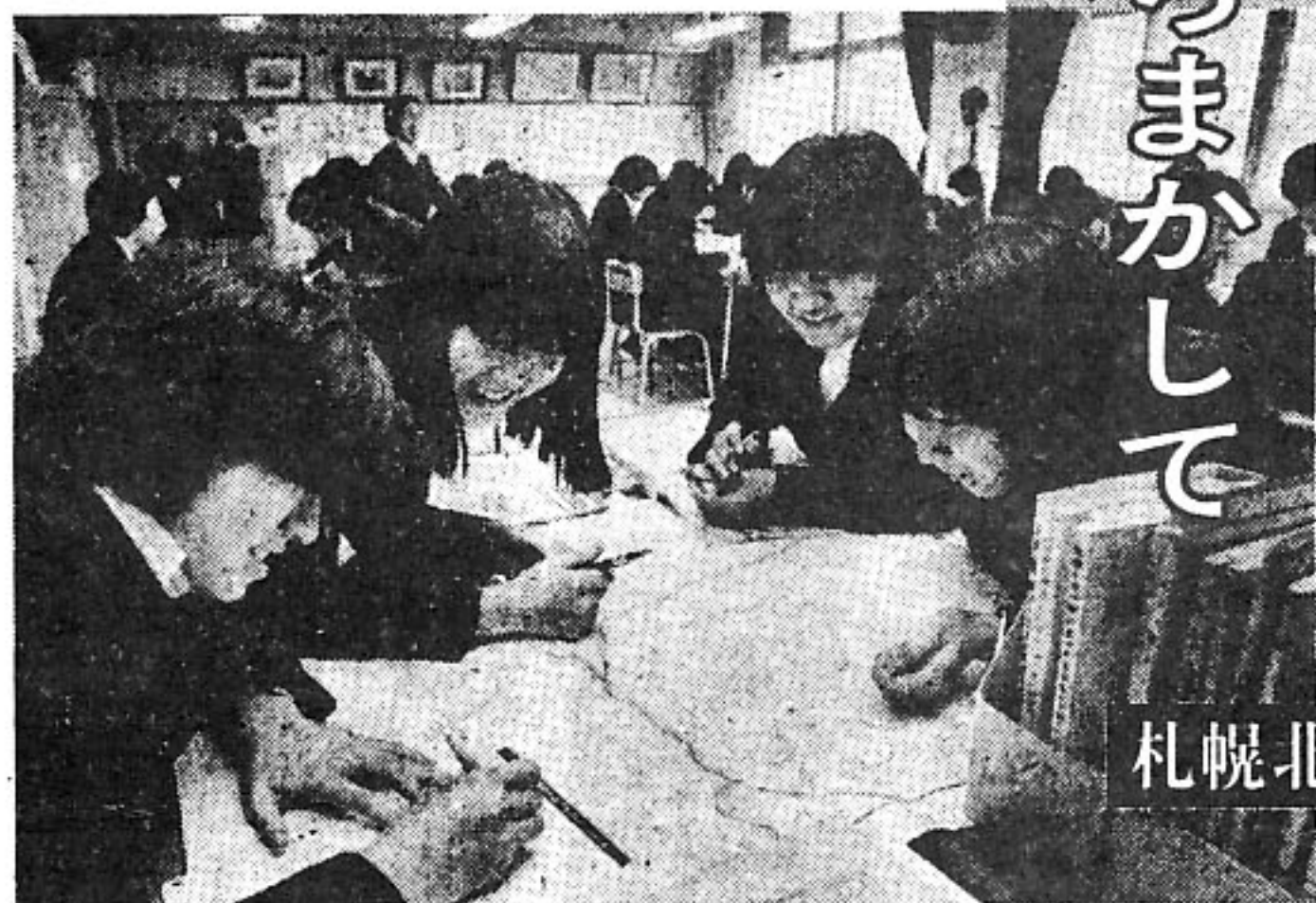
と評価している。

わが市は、わが自宅から船に乗って出てバスを利用して通学している。また、道立野幌高校は全校生徒七百十七人中、地元の江別市からの通学生は、わずか百三十四人、五百七十八人が札幌市内から流れていった生徒で占められている。

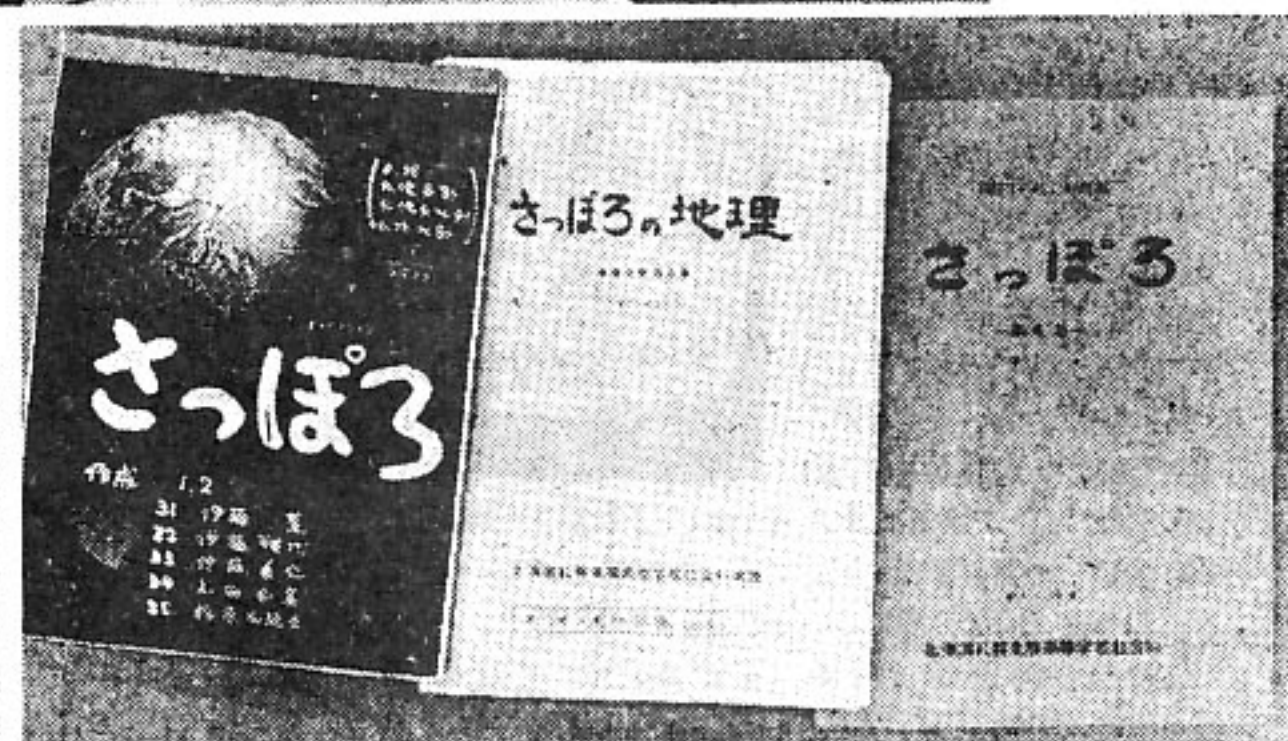
道立札幌北陵高校が生徒の社会科の野外調査のまとめとして出している「さっぽろ」がもう第四集を数えた。毎年、一年生全員が八十グループに分かれ、地理学習の一つとして班ごとに目標を設定、札幌のあれこれを調べて歩く野外調査活動も今年でもう五年。その積み重ねが残したB5判、約四百ページの「さっぽろ」の第一四集には、札幌の地理だけでなく、歴史や環境など市内各地区の動き、様子がぎっしり。貴重な郷土の資料ともなるもの。これを引き継ぎ今年の一年生は、これまでのいわば総集編的な第五集を目標としていま、まとめに取りかかっている。

郷土のデータ ならまかして

札幌北陵高



「さっぽろ」第五集のまとめにはげむ北陵高の一年生



春の地形図学習(左) 秋の巡検のレポート(中)をふまえ学年末に「さっぽろ」(右)がまとめられる

△一年綴ぐるみの活動▽

北陵高校の野外調査は、開校の年、四十九年から始めた一年生の社会科地理学習のためのもの。毎年、新入生全員が先輩の後を継ぎ、広田芳男、木戸口道彰教師らの指導を受けながら進めている。

日程は、七月に一年生全員四百五十人を四十六人ずつ、八十班に分けてテーマ、調査方法を決める。テーマは①地域研究(市内の特定地区の研究)②歴史③河川・山④公園・緑⑤都市計画⑥交通・通信⑦経済活動⑧公害⑨福祉・医療⑩社会一般に大別した分野から先生が提案した百項目を基に、各班それぞれねらいを加味して設定する。

夏休みに調査を実施、二学期に入り結果の分析と研究。九月に中間まとめ、十月末にレポートを作成、十二月に校内発表会。このあと三月末発刊をメドに「さっぽろ」の編集作業だ。

「さっぽろ」は要約を一冊にまとめているので、実際の成果はこれと同じ厚さのものが八十冊、通る。

四集重ねた「さっぽろ」(野外調査レポート集)

去四年間通して三百冊以上の資料がある——と広田先生は説明する。



△三百項目のデータが▽
つまり札幌についてなら三百項目のデータがそろっているわけだ。「地域研究」では狸小路、札幌駅前通りから新幹線、山の手など三十地区が並び、住宅地関連ではもみじ台から青葉町、屯田、真駒内五輪団地などのデータもずらり。各分野を一つ一つ数え上げ切れないほど。

第五集として一冊にまとめられるが、いわば、総集編的なものになりそう。

歴史・地理・

環境、なんでも

貴重な資料ぎっしり

この一連の野外調査には一応、十時間の授業時数が充てられているが、これでは足りず、夏休みを現地調査期間とするほか二学期は放課後も分析、研究に時間をさく。しかし放課後、社会科教室に集まってくる各班の生徒たちの表情は軽やか。自分の目と手で郷土の何かをみつけ、何かを知る作業に表情も生き生きしている。

△レポートは年三冊▽

ところで、同校の一年生は、春と秋にも野外調査を一度ずつ行い、そのつど、一冊のレポートを出す。

春は五月ごろ、四時間の授業と放課後の時間を充て実施する地形図学習。これも班単位の調査活動で、札幌市内の二万五千分の一や五万分の一の地形図を持ち、設けられた目標地点を調べる。

例えば今春のある班は、班全員の自宅と、地図内にある施設を高校、発電所・電業所、公園など種別に分け、全地点の住所と海拔高度を調べた。また地図内の河川、扇状地、田畑、特色ある土地割り、集落形態なども調べ、自分たちで撮影した写真や図入りでレポートをまとめた。

秋は十月、一年生全員が五グループに分かれて巡検(見学、観察を主に比較的広い地域を回る学習方法)する。例えば学校を起点に石狩、発寒、琴似方面を回るなど一回約百キロのコースを設定。貸し切りバスで約六時間にわたり巡回。通過地を見学しながら、あらかじめ先生から与えられた地理的課題と照らし合わせ、現地を観察する。その結果を、レポートにまとめる。

つまり、春の地形図学習で地理的調査の基礎を覚え、秋の巡検で観察とレポートのまとめを復習。これらに立って、夏休みから学年末にかけての野外調査とそのまとめ——三冊目のレポート「さっぽろ」が一年の集大成として出来上がって行くわけだ。

△来年以降の目標は▽

このようにして積み上がった四冊の「さっぽろ」だが、担任教員の綿密な計画設定と指導、授業調整や、調査実施時には校長名の協力依頼書を持たせるなど、学校ぐるみの協力で生徒の熱心さがよくかみ合い、他校に例のない活発な地理学習の成果が生まれたよう。

ただ広田、木戸口先生らは「五年継続していると、活動する生徒は毎年変わっても、課題設定や方法がひとわりと固定化、マンネリ化の兆しが出る。次からは方向を考え直さねば」と早くも来年の目標に頭を痛めていた。

教育

足で書きあげた

地理研究誌

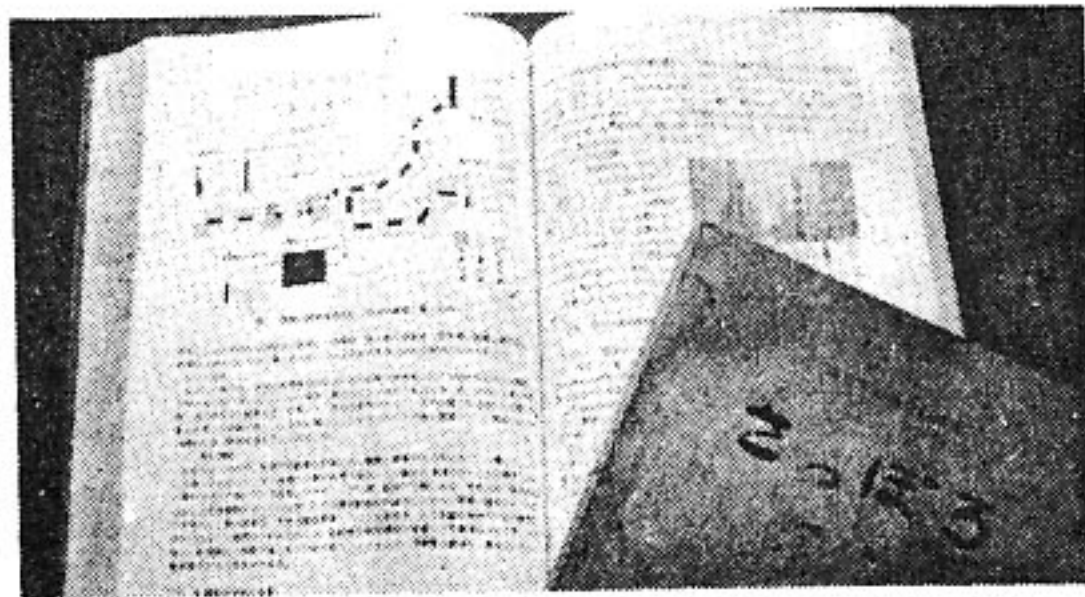
「さっぽろ」

休みも返上の一年間

で上がった地理研究誌「さっぽろ」

札幌北陵高生が第二集刊行

札幌北陵高校（本間末五郎校長、札幌市北区中田）の一年生四百六十人が、足で調べ、書きあげた地理研究誌「さっぽろ」が刊行された。放課後、休日、夏と冬の休みを返上、一年間にわたって資料をコツコツ集め、関係者の話を聞き、四百ページにまとめたものだ。内容は札幌の地域研究、歴史から都市計画、経済活動にまで及び、なかには高校一年生の研究とは思えない力作もある。印刷は活字印刷の値上がりのため、生徒たちが自ら書いた原稿をそのままオフセット印刷する方式。それだけに、サインペンでびっしり埋められたその行間には、生徒たちの並々ならぬ努力と苦労がうかがえる。



広範な資料400ページに

刊行された研究誌「さっぽろ」は、昨年春の第一集に次ぐもので、社会科地理の野外学習の一環として実施したグループの共同研究リポート集。一年生四百六十人を八十グループに分け、調査活動は昨年六月中旬にスタートした。七月中旬までテーマ、調査方法、日程などについて討議が行われ、下旬から足による調査が始まった。

研究テーマは「北大前商店街の地理的研究」「札幌駅前通りの地域的特色について」などの地域研究のほか、「狸路歌舞伎について」「二条市場の発達と役割」「札幌における外国人の生活と意識」など、歴史、河川、都市計画、都市交通、経済活動と幅広く、かなり突っ込んだテーマが選ばれた。とくに二十グループが

取り組んだ地域研究は、昨年の第一集にはみられなかったもので、二集の大きな特徴。調査、研究は夏、冬の休み、放課後、日曜、祝日の休日を利用して進められた。道立図書館、開拓記念館、道教委、市教委、国鉄、商店街、デパート、土地の古老

……夏の炎天下、生徒たちは額に汗を浮かべながら、あらゆる所を訪れた。どのグループも泣かされたのは資料不足。「やっと見つけた資料でも、実際現地でインタビューしてみると、資料と異なり、何が本当のことなのか困ってしまっただけ」という狸路歌舞伎研究

グループの黒沢いずみさん。楽しいこと、思いがけないこともあった。北大前商店街研究グループの田中宏幸君は「いつもはあまり歩いたことのない北大前通りを調査のため十回以上も歩き、今では、何か自分の庭のように思える」といい、北海道開拓に尽くしたエドウィン・ダンの研究グループの問いかけに、東京に住む娘のダン道子さんから手紙と自著「明治の牧場」が届き、生徒たちを感激させた。

調査は十二月まで続けられ、それぞれ一冊のリポート（四百字詰め原稿用紙で平均五十枚）にまとめられた。クラスごとに発表会が行われ、さらにリポートを原稿用紙五枚に要約、第二集ができあがった。三人の指導教師の一人、木戸道彰先生は「なかには資料の丸写しや分析の間違っているものもあるが、綿密な調査に基づいた程度の高い研究も少なくない」と評価。生徒たちも「自分たちで問題点をさがし、考え、まとめるという体験を通じて自信がついた」「一つの仕事をすると人と人との協力の大切さを痛感した」といった声が多い。

生徒たちが集めた資料はかなりの量にのぼり、学校の図書館に郷土資料として分類整理される。明治初期の貴重な写真もいくつかあり、同校の研究活動を知った北大生から「卒論の参考にさせてほしい」という問い合わせも届いている。六百五十部印刷、研究に取り組んだ生徒のほか、協力した官庁や関係者に配布される。野外学習の在り方に一つの方向を示した同校の研究活動は、学校関係者の注目を集めそうだ。